



新課程教科書紹介特集 Part. 1 マーケティング

立正大学准教授
畠山 仁友

1) 科目概説

『マーケティング』の教科書を一言で表現すれば、「大学の商・経営学部で学ぶマーケティングに限りなく近づいた」ということにつきます。改訂前の教科書では、STPや4P政策といった大学のマーケティングで教える理論や概念を、あまり明示していませんでした。本教科書では、STPと4P政策を基本として、マーケティングの計画と実行の流れをフローチャート化し、各章の冒頭に、どの箇所を学んでいるのかをわかりやすく図示しています。先生も生徒も、「今はマーケティングの計画と実行の流れのなかで、どの部分を学んでいるのか」を説明・理解しやすくなっています。

指導要領の内容が変わり、以前の教科書とは構成が異なりますが、教える先生方がその違いに戸惑わないようにすることを意識しました。

2) 教科書の特長

①豊富な事例

マーケティングは、私たちが普段行っている「買い物」に関わりが深い学問です。そのため、生徒自身の買い物を思い出してもらって理解しやすいと考えています。そこで、マーケティングの理論や概念が、買い物の場面でどのように使われているのかを豊富な事例や写真を見てもらうことで、身近に感じてもらうようにしました。先生には、「みんなが買い物をしているときに、どんな風にマーケティングの知識が活用されているのか、コンビニとかスーパーで考えてみよう」と生徒に問いかけてもらえればと思います。

②大学のマーケティングと遜色ない記述

率直に言えば、「この教科書を高校で学んでくれれば、大学のマーケティング授業でも十分通用する」と言っても過言ではありません。高校生に合わせて言葉の平易さは意識していますが、マーケティングの基本をおさえられるようにしました。生徒にとって、大学進学でも、就職でも、役立つ知識が満載です。

③アクティブ・ラーニングへの対応

高校の現場でも、アクティブ・ラーニングへの対応が求められていると聞きます。そこで、グループワークや宿題として、先生方の「課題を設定する」手間暇を軽減するために、事例やコラムに「+ Study」を設けました。またPOP制作など実習の特集ページもつくりました。文化祭が近づいたらPOP制作を教科書に基づいて実習することもできます。

3) 工夫したこと

①生徒に身近な事例選び

できるだけ、古くても新しくても生徒に馴染みがある事例や、生徒が調べやすい最新事例を取り上げるように工夫しました。

②専門用語をわかりやすく説明

マーケティングの言葉は、カタカナ（英語）が多くて教えるのも大変です。生徒からしても、カタカナはキャッチーなのですが、試験勉強で覚えるとなると、「SWOTとPESTって何が違うんだっけ」と大変に違いありません。そこで、専門用語についてはできるだけ「冒頭で」「平易な文章で」「短く」、定義を説明することを心がけました。

③生徒の「なぜ？」に答える記述

「なぜマーケティングを学ぶのか?」「なぜ社会貢献が必要なのか?」「なぜ少子高齢化を考えなければならないのか?」といった、生徒が疑問を感じそうなことに対して、回答を明記するようにできるだけ記述を充実させました。

4) メッセージ

「先生が教えやすく、生徒が教わりやすい」教科書を目指しました。高校生に身近な事例を豊富に掲載しましたので、マーケティングが、みんなが毎日のように行っている「買い物」に関わっていることを体感しつつ、「マーケティングは楽しい・面白い」ということを、本書を通じて生徒に感じてもらえれば、著者一同、うれしく思います。



新課程科書紹介特集 Part. 2 商品開発と流通

早稲田大学商学大学院教授
恩蔵 直人

①科目概説

本書『商品開発と流通』では、今日の経済社会において商品がどのように開発され、私たち消費者の手元にどのように届くのかについて学んでもらいます。私たちは、日々、多様な商品を消費していることからわかるように、私たちにとって商品はなくてはならない存在です。しかも、本書における「商品」には、単にシャンプーや冷蔵庫のような有形財だけでなく、ホテルやテーマパークといったサービス、つまり無形財も含めることで、学びに広がりを持たせています。その商品の開発プロセスや流通システムに関して学んでおくことは、これから社会人となる生徒たちにとって極めて重要であると考えています。

②教科書の特長

本書では読者の皆さんに、各トピックについて身近に感じてもらえるような工夫をしています。できる限りホットな事例を盛り込むとともに、皆さんの関心を高め理解を促すために、各所に興味深いコラムを取り入れました。また、新しい時代におけるトピックとして、デザイン、ブランド、クラウドソーシングなどについての節や項を設けることにより、インターネットやデジタルが当たり前となっている今日にふさわしい内容となっています。教科書のタイトルからもわかるように、これまで切り離されていた「商品開発」と「流通」を一冊の教科書にまとめることで、商品が生まれてから私たちの手元に届くまでの流れを包括的に学べるように工夫しました。

③先生方へのメッセージ

「商品開発」と「流通」は、私たちの生活から切り離すことができないばかりか、ビジネスに幅広く結びついています。様々な分野で活躍することとなる多くの生徒たちに、この『商品開発と流通』を学んでいただきたいと思っています。



新課程科書紹介特集 Part. 3 グローバル経済

実教出版 編修部

①科目概説

『グローバル経済』は、旧課程のビジネス経済とビジネス経済応用が整理・統合された科目です。新課程では人材や金融、企業活動のグローバル化など、「経済のグローバル化」に関する内容が追加されました。本書では、経済のグローバル化に加えて、経済の基礎理論、さらには経営に関する内容も学習できます。

②教科書の特長

本書には図版を豊富に掲載し、「経済のグローバル化に関連する知識や理論」を、スムーズに学習してもらえるよう配慮しました。

また、本文に関連した興味深い話をまとめた「コラム」や、学習内容を補足する「参考」、実際の企業を紹介する「事例」を豊富に掲載し、経済に関する幅広い知識・教養をさまざまな観点から身に付けられるよう編修してあります。「コラム」と「事例」には、生徒自らが主体的に学習を進め、探究できるような実習課題（+ Study）も設けました。

さらに、本書最大の特長とも言える点が、「経済理論を最終章である4章に配置」したことです。まずは、1章～3章で、経済のグローバル化に関する経済概論を学習してから理論を学ぶことで、より深い理解を促すことを目的としています。また、1・3・4章が経済学、2章が経営学に関する学習内容となっているため、進学希望の生徒が将来どちらの分野を専攻したいかを検討するための指針としてもご利用いただけます。

③先生方へのメッセージ

執筆陣・編修部ともども、使っていただける先生方や生徒のことを思い、心を込めて編修しました。小社教科書「グローバル経済」を通じて、より良い学びのお手伝いできれば幸いです。



新財務会計 I 高校財務会計 I

城西大学経営学部客員教授
粕谷 和生

1. 教科書の特長

	新財務会計 I	高校財務会計 I
表現	図解・表などを多用したわかりやすい表現	スピード学習向きのコンパクトな表現
構成	財務諸表の区分に沿って進む学習構成	財務会計の易しい論理で進む学習構成
検定試験	全商簿記検定 1 級対策の決定版	日商簿記検定 2 級対策の決定版
共通点	<ul style="list-style-type: none"> ● 会計用語の定義については高水準かつ正確に表現 ● リース会計、外貨建取引会計、税効果会計をはじめ新しい分野に対応 ● 学習指導要領から削除された「連結財務諸表の作成」を発展編として継続掲載 	

【共通点の補足】

今日の会計用語については、伝統的な定義に加え、新しい定義も多数登場しているため、両者を調和的に統合し、教科書に生かしています。新財務会計 I では代表著者の安藤英義先生が、高校財務会計 I では代表著者の大塚宗春先生および川村義則先生が、用語の定義について念入りにチェックしています。そのため、大学や大学院においても十分通用する水準になっています。

また今回は、いわゆる新会計基準のリース会計や外貨建取引会計、税効果会計などが財務会計 I に入ってきました。これらは国際会計基準をはじめとする新しい会計の考え方に基づいています。二つの教科書ともに、新しい考え方を従来の枠組みの中へ円滑に取り込んでおり、先生方には、違和感がないように構成されています。

連結財務諸表の作成については、学習指導要領から削除されましたが、とても重要な内容ですので、教科書の最後に「発展編」として残しました。学習が進んでいる生徒諸君には大いに活用してほしいところ です。

2. 新課程に向けた工夫

(1) 新財務会計 I

① 徹底したわかりやすい図解・イラスト・表

本シリーズは従来から図解や表、イラストなどを多く用いて、徹底してわかりやすさを追求してきました。まず、前見返しの特集 1 では、具体的な企業グループと利害関係者、特集 2 では一覽でわかる固定資産の除却・売却・買い替えの会計処理、特集 3 では株主資本の構造図と仕訳の対比、特集 4 と 5 では簿記会計の歴史を、興味・関心を引く貴重な写真や図解・イラスト等で解説しています。

また、企業会計原則の一般原則 (p.22-23) は、これまでの見開きの表とイラストをブラッシュアップしましたので益々理解しやすくなっています。売買目的有価証券の買い入れ・利息の受け取り・売却についての会計処理 (p.48-49) も、見開き二ページで仕訳の考え方、特に有価証券利息の処理について短時間で理解できるようになっています。

② 俯瞰してから個別論点に向かうアプローチ

本書の 7 割以上を占める第 2 編と 3 編は、まず高いところから見渡し、大まかな全体像を把握してから個別論点の学習に入っていくアプローチをとって

います。第2編は「貸借対照表」ですが、初めの二つの章（第3章と第4章）で貸借対照表の全体像を学びます。ここでの学びが、あとに続く十五の章（第5章～第19章）のナビとして役立ちます。第3編においても同じようなスタイルの学びになっています。このスタイルは財務会計の学習が進むにつれ、仕訳や計算ばかりに集中し、自分が今、財務会計全体のどの部分を勉強しているのかを見失わないようにするためです。「木を見て森を見ず」にならないようにしてあります。

（2）高校財務会計Ⅰ

① 新しい「収益認識基準」の自然な合流

これまでの教科書では一貫して収益認識の基準を企業会計原則でいう実現主義とし、具体的には商品やサービスの引き渡しが行われ、現金や売掛金などの資産を取得した時に収益を認識する販売基準であると説明してきました。つまり、実現主義を伝統的な収益認識の基準として位置付けてきました。

そこに新しい収益認識の基準として企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」が登場しました。この基準によれば、収益の認識は5つのステップを踏み、履行義務の充足にもとづいて行うとしています。今後はこの基準に従って教科書を書くことが求められます。日商簿記検定もその方向です。

しかし、いきなり第29号を前面に出した教科書が出現すると現場は大混乱に陥ること必至です。

そこで本教科書では、伝統的な実現主義に沿った記述を本流とし、そこに新基準の内容を無理なく自然に合流させることとしました。

具体的には、p.127において新基準を「実現主義による収益の認識をより詳しく示した」ものであるとし、新基準を実現主義の詳細版と位置づけました。

p.129では、収益認識を「一定時点」で行うか、「一定期間」で行うかの観点から、伝統的な流れに新基準が自然に合流する表を作成しました。この表は他に類を見ない画期的な表ですが、実にすんなりと収益認識の学習に入れます。

またp.130では、ゴシックにこそしていませんが、今日の財務会計におけるキーワード「支配の移転」

という語を二回用いて、新基準のもとでは出荷時ではなく、引渡時または検取時において収益を認識することになると説明しています。また、会計処理が変更となった売上割戻しについても例題を設けて丁寧に解説しています。

続くp.131からは、「収益認識の五つのステップ」と題して3つの例題を使って解説しています。このわかりやすさは、市販の専門書をはるかに超えています。以上の他にも自然な合流が随所に見られます。

② 日商簿記検定への対応

リース会計や外貨建取引会計、税効果会計などは章を設けて扱っています。また、電子記録債権・債務、クレジット売掛金、ソフトウェア、役員収益・役員原価などは既存の章の中に自然と合流させています。

圧縮記帳や割賦購入など本文で扱っていない項目はLet's Tryで解説し、日商簿記検定の出題範囲を完全にカバーしています。

3. 先生方へのメッセージ

近年、高校の教科書は大学教授など多くの専門家から「そのわかりやすさ」の観点で評価され、注目を集めています。特に、実教出版の新財務会計Ⅰおよび高校財務会計Ⅰに対しては高い評価を得ています。

その理由は代表著者にあります。新財務会計Ⅰの代表著者の安藤英義先生、高校財務会計Ⅰの代表著者の大塚宗春先生と川村義則先生は、どなたも優れた多大な業績があり、大学教授の間では超有名な人物です。一般に著名な大学教授が書く書物は、難解なことが多いのですが、実教の二つの財務会計は、どちらもわかりやすさに秀でています。それでいて高い学問的水準も保持されています。

先生方の学校の授業で、教科書として最も信頼できる新財務会計Ⅰ・高校財務会計Ⅰがお役に立てることを、執筆者一同心から願っています。



1. 教科書の特長

表現	図解・イラストを多用したわかりやすい表現
構成	伝統的かつ標準的な理論構成
検定試験	全商（日商）簿記検定対策の決定版

2. 新課程に向けた工夫

(1) 工場内を簡単にイメージ

工場内部の実際の様子を知っている高校生はほとんどいませんので、それを少しでもイメージできるようなイラストをふんだんに使っています。

たとえば、p.27では、原価の三要素が製造現場に投入され、製品として完成するイラストが描かれています。単純なものですが、原価計算を学ぶ上で基礎となる最重要イラストです。これが次のページの勘定設定に生かされ、工業簿記の基本となる諸勘定を導き出しています。生徒は自然な流れで学べます。

また、p.119や表見返しのイラストは、原価部門を容易にイメージできるようにしています。特に、見返しのイラストは実在する大阪の工場をモデルに描かれており、リアリティ溢れるものに仕上がっています。

さらに、p.164のイラストは工程別の製造工程を、p.174のイラストは減損の発生を簡単にイメージできるように描かれています。

(2) 図を使って理解する

第4章～第6章の最初のページでは、原価要素の形態別分類の細分項目の説明文をイラストで補って具体的に理解できるようにしてあります。たとえば、第4章の初めの二ページでは、素材、買入部品、燃料、工場消耗品、消耗工具器具備品のすべてを図示しており、それは第5章、第6章も同じです。

p.91-95は、文章よりもはるかに図解スペースの方が広いです。それでいて製造指図書番号、賦課と配賦、原価計算表と原価元帳の関係、原価計算表と仕掛品勘定の関係など個別原価計算の仕組みを完全に

解説しています。

また、極めつきはp.120-121の部門別個別原価計算の手続きを俯瞰する見開きの図解です。この章はかなりボリュームがある分野ですので、まず全体を把握してから個別論点に入ることが重要で、この見開きの図解は計算手続きの全体像を把握するのに最適です。この図解の番号どおりに進めば、全商簿記検定の総合問題は解きやすくなります。

そのほか総合原価計算の種類を一瞬で把握する図解（p.138）や等級別総合原価計算の定義文を補う図解（p.152）など多数掲載しています。

(3) 図を使って計算する

原価計算では、多くの計算式が登場してきますから計算が大変です。本書では、各種計算式の意味を図で解説し、結果的に図を使って計算できるようにしています。

代表的な図解を二か所紹介します。まず、第9章総合原価計算の月末仕掛品原価の計算です。長方形の図（BOX図）を用いて計算方法を解説しています。平均法や先入先出法の計算式を覚える必要はありません。BOX図の中に問題資料の数値を当てはめれば、簡単に計算することができます。

二つ目は、第17章直接原価計算のCVP分析の計算です。p.243-246までの損益計算書の右側にある簡単な図を使って計算しますので、損益分岐点売上高を求める計算式などは一切覚える必要はありません。図を使えば自然と計算式が作れます。

3. 先生方へのメッセージ

本書は検定試験に最も適した教科書ですが、単なる受験用の本ではありません。代表著者の早稲田大学教授伊藤嘉博先生による高い学問的見識が結集された原価計算の専門書として仕立てられています。

先生方の学校の授業で、本書がお役に立てることを執筆者一同心から願っております。



新課程教科書紹介特集 Part. 6 ソフトウェア活用

東京都立江東商業高等学校 教諭
小倉 俊悦

1. 科目の概要

新科目「ソフトウェア活用」は、企業活動においてソフトウェアを活用するために必要な資質・能力を育成する視点から、「ビジネス情報」の指導項目を改善し、科目の名称を改めた。また、今回の改訂にあたり、ビジネス計算に関する内容を「ビジネス基礎」に移行するとともに、仕入・販売管理ソフトウェアとグループウェアの活用に関する内容を「ビジネス実務」から移行するなど改善が行われた。

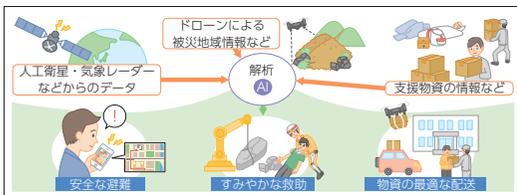
2. 教科書の特長と工夫した内容

指導要領では、学習内容を5章としているが、本書では1章「企業活動とソフトウェアの活用」を、「ソフトウェアの活用」と「ネットワークの活用」に分離して6章で編成し、学習の効率化・利便性を図った。また、基本的に「ビジネス情報」を踏襲しながら、以下の加筆・修正、工夫を行った。

①1章「企業活動とソフトウェアの活用」

…1節「ビジネスにおけるソフトウェアの活用」では、オンプレミスとクラウド、デジタルトランスフォーメーション(DX)、SaaS・PaaS・IaaSなどのソリューションサービス、Fintech、デジタル観光プロモーション、MaaS、さらにセンシング技術とソフトウェアへの活用など、様々な最新技術と用語を数多く取り上げた。

…2節「ビジネスにおけるソフトウェアの進化」では、AIを活用したSociety5.0で、私たちの社会がどのように変化していくかを、防災や農業、交通、エネルギー分野などの具体例を示して記述した。



②2章「情報通信ネットワークの活用」

…1節「情報通信ネットワークの導入と運用」では、無線LANの世代分け(IEEE802.11b～11ax)やメッシュWi-Fiなど最新の環境を解説した。

③3章「表計算ソフトウェアの活用」

…2節「表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ」では、日程管理で用いられるアローダイアグラムやクリティカルパス、表計算ソフトウェアによる解法、さらにゲームの理論についても新たに取り上げた。

④4章「データベースソフトウェアの活用」

…4節「データベースの構造」では、トランザクションやコミット、ジャーナルファイル、ロールバック、ロールフォワードなどを詳しく記述した。

⑤5章「業務処理用ソフトウェアの活用」 New

…1～3節とも共通で、①各ソフトウェアの概要と導入のメリット、②各ソフトウェアの実例(代表的なソフトウェアで記述)と活用実習(クラウド型フリーソフトウェアで記述)の構成とした。

⑥6章「情報システムの開発」

…1節「システム開発の基礎」では、最新の開発モデルであるアジャイル開発について解説した。

…3節「情報システムの開発演習」では、表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアによるシステム開発演習が終了後、両者の連携演習ができるように構成した。また、表計算ソフトウェアの実習問題では、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことを目指した協調学習を用意した。

3. メッセージ

1年次の「情報処理」を基礎とし、2年次以降で本書「ソフトウェア活用」を学習することで、商業で学ぶすべての生徒が、企業活動におけるソフトウェアの活用について、組織の一員としての役割を果たすことができることを期待している。



新課程教科書紹介特集 Part. 7 プログラミング～マクロ言語～ 最新プログラミング

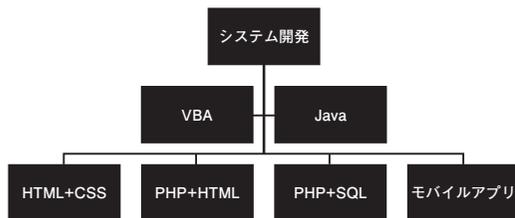
千葉商科大学客員講師
並木 通男

1 科目の概要

「プログラミング」では、小学校からのプログラミング教育必修化を受けて、高等学校商業で扱うプログラミングの位置付けを検討した。その結果ビジネスにおける実用性の重視と、モバイルに対応したWebアプリケーション開発技術の習得を考慮して構成した。

2 教科書の特長と工夫した内容

本書では、VBAとJavaの2種類の言語を扱い、応用分野の充実と実用性への配慮から2点に分けて発行した。また、目的に合わせた開発が可能のように、多様な開発環境を共通して扱っている。



▲教科書の構成

1 章 情報システムとプログラミング

ここでは、ビッグデータ・IoT・AIを活用したシステムの紹介と、プログラミングを学習するにあたっての基礎的な知識を解説している。

2 章 アルゴリズム

ここでは、アルゴリズムの基本から応用処理までを解説している。言語の特徴を考慮して、処理の表現を変えているが、取り扱う技法は共通しており、それぞれ検定で取り扱う内容を網羅している。

3 章 プログラムと情報システムの開発

ここでは、システム開発の技法と開発プロジェクトの管理を解説し、VBA・Javaそれぞれの言語の特徴をベースに、プログラミングの基礎から応用までを身につけ、手順に従ったシステムの開発を学習する。

①「プログラミング～マクロ言語～」では、表計算ソフトの自動化処理などをテーマに、ユーザフォームを活用した「売上管理システム」の設計から作成まで

を学習する。

②「最新プログラミング (Java)」では、Web上で稼働する「会員管理システム」「売上管理システム」、クラスの継承を利用した「クイズアプリ」の設計から開発までを学習する。

4 章 情報システムの開発演習

ここでは、さまざまな業務の改善に対応できるように、プログラム言語の連携をテーマに構成している。

①「Web ページ作成の基礎」では、HTMLを活用したWebページの作成を学習する。

②「スタイルシートの活用」では、Webの見栄えをデザインする、スタイリング作業を学習する。

③「PHP の活用」では、スクリプト言語の1つで、文法も易しく動作確認も容易なPHP言語を中心に、HTMLとの連携処理を学習する。

④「データベースとの連携」では、アンケート集計をテーマに、PHPとMySQLとの連携を学習する。

⑤「携帯型情報通信機器用のソフトウェアの活用」では、スマートフォンやタブレット端末で動作する、モバイルアプリケーションの作成を紹介する。

⑥「オブジェクト指向型言語」「手続き型言語」では、中心に扱う言語以外に、両書でJava・VBAの基礎をそれぞれ相互に解説し、開発に必要な基本的な知識を学習する。

5 章 ハードウェアとソフトウェア

ここでは、検定のほか「ITパスポート試験」や「基本情報技術者試験」の基礎にも対応しており、情報セキュリティに関しては実用的な情報を解説している。

3 メッセージ

今後技術者が不足すると予測されている社会において、文系理系を問わない情報技術者の人材育成が提唱されている。商業を学ぶ生徒がビジネスの専門性とコミュニケーション能力を活かして、職場のITリーダーとして育つことを願っている。